

自民党 文化立国調査会 投資拡充など提言「文化芸術の振興を成長の原動力に」

自民党文化立国調査会(会長・永岡桂子衆議院議員、元文部科学大臣)は5月31日、文科省を訪れ、盛山正仁大臣に文化投資の拡充などを訴える提言を手交した。



盛山文科大臣(中央)に提言を手交する永岡会長(左から2人目)ら

同調査会ではこれまでに、複数のプロジェクトチームや小委員会を立ち上げ、延べ20回

にわたる議論を行い、提言「文化芸術の力をわが国成長の原動力へ」文化立国実現に向かた国家戦略の構築「」を取りまとめた。

国家戦略として、文化芸術の振興を「成長の原動力」としていくため、①わが国の文化財を護り、育て、伝え、活かす方策②国立劇場の整備促進に向けた方策③メディア芸術ナショナルセンター(仮称)構想の加速化方策④クリエイター・アーティスト育成支援に向けた方策⑤アート市場活性化・国際拠点化に向けた方策⑥わが国文化芸術をより豊かなものに発展させるための様々な方策――の6つを今後推進すべき重点施策として掲げている。大臣との懇談後、永岡会長は「昨年からPTなどを立ち上げて議論を重ねてきた。文化芸術は日本の成長産業の大きな柱になる」と述べ、提言の意義を強調した。

老朽化のため昨年10月に閉場した国立劇場を巡っては、民間の力を活用する「PFI方式」による建て替えの方針が決定。ただ、これまで入札が2回行われたが、事業者は決まっていない。このため、提言では「国への責任において整備すべき」と訴えている。

(次頁に「提言概要」掲載)

超党派 MANGA議連 ナショナルセンター整備求め

超党派の「マンガ・アニメ・ゲームに関する議員連盟」(MANGA議連)の古屋圭司会長らが5月29日、文科省で盛山正仁大臣と面会し、「MANGAナショナルセンター」(仮称)の整備を申し入れた。

古屋会長(中央左)と盛山大臣(同右)らは、MANGAナショナルセンターの整備を申し入れた。東京都内が有り、力候補とみられる。古屋会長(中央)は、MANGAナショナルセンターの整備をめどに整備するよう求めている。なお、中」としたが、「検討



保存会から要望を受ける盛山大臣(右から2人目)は、筆山笠の原型を残す黒崎祇園行灯をつるすなどを飾り付けを行う。今年3月にまとめられた福岡県の調査報告書では、筆山笠の原型について、文化財としての重要性が改めて示されている。

黒崎祇園山笠保存会が要望 黒崎祇園行事を選択無形文化財に

黒崎祇園山笠保存会の大冢敏志(参院議員)、濱地雅一(衆院議員)両名が顧問らが5月28日、文部科学省で盛山正仁文科大臣と面会し、福岡県内でも由緒ある祇園祭礼の一つ「黒崎祇園行事」を選択無形文化財に選択することを要望した。

北九州市八幡西区黒崎地区の黒崎祇園行事は毎年夏に開催される北九州市の三大夏祭りの一つ。大きな特徴として、山笠(神輿・山車状の祭具)の原型とされる筆山笠がある。筆山笠は、台に筆を立てて両脇に提灯をつるすなどを飾り付けを行う。今年3月にまとめられた福岡県の調査報告書では、筆山笠の原型について、文化財としての重要性が改めて示されている。

言要 提概要 文化芸術の力をわが国成長の原動力へ ～文化立国実現に向けた国家戦略の構築～

（総論）

文化芸術は、人が人として生きていく上で欠かすことのできないものであると同時に、わが国の力の源泉である。今こそ、これまでにない異次元の規模で、官民による文化投資を拡大することで、文化芸術の振興をわが国成長の原動力としていく必要がある。

（文化投資の拡充を急ぐべき三つの領域）

文化芸術の力を活かし、より高次のイノベーションを促進することで、新たな社会変革と世界をリードするわが国の未来を創造するためにも、次の三つの領域をはじめ、わが国の文化芸術に対する投資を抜本的に拡大・強化すべきである。

一 文化財の保存・活用に向けた投資の拡大
 国民的財産かつ地域コミュニティの核／誇りであるとともに、インバウンド・文化観光の中核をなす資産でもある有形・無形の文化財について、令和6年能登半島地震も踏まえつつ、客観的なデータに基づき、活用の前提となる「文化財の強靭化」に国の責任で計画的な投資を行う。これにより文化財の本来の価値を維持しつつ、国際観光旅客税財源も活用し、官民連携により高付加価値化して最大限活用することで、文化財修理のナショナルセンターの京都設置と併せて、持続可能な保存・活用のモデルを京都から構築・発信し、地方創生を実現していくべきである。

（二 國立劇場再整備に向けた投資の拡大）

開場以来長年にわたりわが国文化芸術において整備すべきである。その際、新しい国立劇場を文化の拠点として機能強化するための民間の知恵や経験を活かした魅力ある運営や、劇場全体の収益の在り方等を多面的に検討しながら、建設に向けて、設置場所を含めたあらゆる可能性を追求すべきである。

三 クリエイター等育成支援とそれを支える環境整備に向けた投資の拡大
 わが国のメディア芸術は、日本を代表する文化産業へと成長しており、若手クリエイターや、劇場全体の収益の在り方等を多面的に検討しながら、建設に向けて、設置場所を含めたあらゆる可能性を追求すべきである。これ達が創り出す質の高い作品群を国内外に広く発信し、新たな価値を生み出し続けるため、令和5年度に創設した基金について更なるニーズに対応し拡充を図るべきである。同時に、

文化芸術活動の土壤を豊かにするための取組を、政府一丸で推進していく必要がある。また、わが国のマンガ・アニメ・ゲーム等の保存・継承・活用、次代を担う人材育成、確保を行う創造発信拠点として、メディア芸術のナショナルセンター機能を早急に確立すべきである。

（文化投資の拡大に欠かせない「基盤／環境」の整備）

○ 文化芸術の各分野におけるセンター機能の強化・文化芸術における様々な分野ごとに行われる活動を支援し、分野横断的にも活用できる基盤の整備として、分野単位でのセンター機能を整えるべきである。

○ アーツ・カウンシル機能の整備・強化・文化芸術の領域横断的な戦略の策定や、人材育成、ファンディングとともに、構造的な課題を解決できるよう伴走型支援を行うアーツ・カウンシル機能の整備・強化が不可欠である。

○ クリエイターによる自由な活動のための環境整備・クリエイター等の尊厳ある自由な活動環境を確保するため適正な契約や利益還元などの構造の改革を政府一体となつて取り組むとともに、文化投資に対する国民の理解と納得を得るために、不正行為やハラスメントなどに対応できる体制の整備など透明性の高い文化芸術団体への体質改善も重要である。

○ わが国のアート市場の活性化・国際拠点化・わが国のアート市場の活性化の流れを定着・発展させるため、国際的なアートフェアの誘致・開催に資する取組への積極的な財政支援や国際拠点となる近現代美術館の機能強化に取り組むべきである。

今後推進すべき6つの重点施策

1	わが国の文化財を護り、育て、伝え、活かす方策
2	国立劇場の整備促進に向けた方策
3	メディア芸術ナショナルセンター構想の加速化方策
4	クリエイター・アーティスト育成支援に向けた方策
5	アート市場活性化・国際拠点化に向けた方策
6	わが国文化芸術をより豊かなものに発展させるための様々な方策(地域の様々な文化の継承と振興、文化DXの推進、担い手の育成等)